新しい「新潟市」への期待

合併を前に、私たちの生活の舞台となった横越町への思い、合併後の新潟市に寄せる期待などについて語ってもらいました。

新潟青陵大学短期大学部２年
阿部 水耶 さん

緑豊かな横越町に生まれて

私はこの度、無事成人式を迎えた事に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

これまでの学生生活を経て、様々な事を通して、多くの事を学び、多くの人と出会い、人間として成長する事ができました。それは、愛情をそそぎ育ててくれた両親・家族をはじめ、親切なご指導をしてくださった先生方、笑顔で接してくれた友人たちがあったからです。

横越町で生まれ育ち、数え切れない思い出があります。春は田植えの終わった緑の田園地帯を自転車で通いました。四季折々の自然豊かな景観が思い出されます。

３月21日をもって、新潟市と合併し、やがて田園型政令指定都市となると聞いております。その中で、合併後の横越町は新潟市のほぼ中心に位置し、将来に向けて大きく発展することと思います。

私も就職し、春から働くことになります。緑豊かな横越に生まれ育った思い出と、新しい新潟市への期待を胸に、私も笑顔を大切にし、明るい社会をつくるために、努力していきたいと思います。

横越小学校６年
小池 あゆみ さん

横越町から新潟市へ!!

私は、生まれてきてからずっと横越町に住んでいます。私は横越のことを知らないところもありますが、知っていることもあります。

それは、自然が豊かだということです。阿賀野川、畑や田んぼなどの豊かな自然があります。私は阿賀野川が大好きです。なぜかというと、阿賀野川のそばにいるとなんだか落ち着くからです。でも、４年生の総合学習で阿賀野川を調べたら、ゴミが多くてびっくりしました。「これ以上阿賀野川にゴミが増えてほしくないな」と思いました。また、梨、長いも、キャベツなど、横越の畑から作られる特産物もあります。横越町という町はなくなってしまうけど、これからもおいしい果物や野菜を作ってほしいと思います。

今年の３月から、横越町ではなく、新潟市になります。横越町のことももっとよく知りたかったけど、これからは「新潟市のことについて、ちょっとずつ知っていきたいなぁ」と思っています。そして、新潟市民として４月からりっぱな中学生になりたいと思います。新しい気持ちで来年度をスタートさせていきたいです。

横越町老人クラブ連合会 会長
大森 勉治 さん

激動の時代に生き長らえて

大正、昭和、平成の激動の時代を生きのびて、歴代の先輩諸氏が高齢者の生きがいを求めて健康で楽しい老後を過ごそうと作ってくれた老人クラブを如何にして大事に守っていくかが、私達役員に課せられた使命だと思う。

私もすでに78歳。今静かに過去を振り返る時、あの青春時代の大東亜戦争を思い出す。戦争に赴き、終戦後は酷寒のシベリアで抑留、何時も頭から離れることのない当時の状況、あの苦しい修羅場を生き抜いてきたからこそ、今の私がある。

今度は社会に恩返しをしなければと、老人クラブのことで生きがいを求めているところです。今は飽食の時代、ある程度の生活ができる社会。老人クラブなんか入らなくても生きていけると思っている人が意外と多い。ある年齢に達したら、今まで生きてきた事への感謝、社会への恩返しの気持ち・ボランティア精神を持って活動すれば、ボケ防止にもなるし、健康にも役立つと思う。将来、政令指定都市大新潟市になっても、みんなが参加する生きがいのある老人クラブができるものと思う。

横越中学校２年
石塚 菜央 さん

横越町から新潟市へ…

合併の日も近づいてきて、『横越町』と呼ぶのもあと少しとなってしまいました。私は、合併後のこと、合併の良さなど、あまり知らないのですが、新しく新潟市になるということで、期待していることがあります。

それは、学校の数が増えるということです。現在、横越町には、小学校・中学校ともに１校ずつしかありません。しかし、合併すると１つの市の中にとてもたくさんの学校があることになるので、学校の数が増えるぶん、私たちの活動の場や他校の生徒との友好関係が広がっていくといいな、と思います。

合併すると、『横越町』という１つの町ではなくなってしまいます。ですが、チューリップ・長いも・ごぼうなど、他にもたくさんある横越のすばらしい伝統を、未来に残していきたいと思います。そして、横越とともに合併する亀田町・豊栄市・新潟市・新津市・白根市・小須戸町・西川町・味方村・潟東村・月潟村・中之口村・岩室村の、それぞれの良いところを生かして生活していけるような新・新潟市の誕生、そして、政令指定都市として、より一層発展していくことを期待しています。

合併直前特集　私たちの郷土「横越」への思い・

木津工業団地連絡協議会 会長
塩田　清 さん
(㈱新潟ダイハツモータース 代表取締役社長)

横越町に育まれて

当社が広い駐車場を求めて横越に来たのは24年前でした。その時は5,500坪だったのが、地域の方々の好意を受けて、部品センター・中古車センター・鈑金センター・物流設備を設け、現在では15,000坪になって本当に感謝しております。

あの頃、当社の新車販売台数は年間8,500台でしたが、昨年は16,000台で過去最高となりました。これはモータリゼーションの発展の中で、ダイハツが得意とする軽自動車のエンジン、ボディが年々大きくなり、操縦感、居住性が良くなり、日々改善、改良を加えて大変乗り易くなったこと。今では車は生活必需品であり、楽しい癒しの商品となって、軽自動車のシェアは昨年県内で43%を占めるまでになりました。

山紫水明な阿賀野川の存在は、素晴らしい観光資源であり、道路網が良くなり、新潟市と合併、政令指定都市になれば、生活環境は向上し、人口の増加は必然です。当社はここに美しいショウルームを作り、更にアフターサービスの万全を期し、お客様のご期待に報いる所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

財団法人北方文化博物館 館長
伊藤 文吉 さん

人間としての「間合い」を大切に

日常使っている日本語は実に素晴しい言語であると思う。家を建てる時は家の大小を問わず先ず「間取り」を真剣に考える。「間」というものを先ず考えて来た。色んなスポーツにしても「間合い」が大切。「時の間」にしても数億年前の１時間は今も同じ１時間。しかし、人間の欲望と物流の進化に伴い、昔の１年が今では１日になるかも知れない。

馴染深かった「村」が町になり、市になろうとしている。村がなぜ人々に馴染深く感ぜられるかは、人と人との「間」が近かったからだ。「人間」が同じ「時間」を共有していたのが村であった。人と人との程よい間合いがなくなっていくのが寂しい。かつて我々が生活して来た時代、衣食住全てが無垢の物だったが、だんだん「もどき」になって来た。特に食に関する産物はどこの物かわからなくなって来た。隣に住む人も誰だかわからない。人と人との「間」がなくなると「間違い」が起き、人類の間合いもなくなると地球の消滅を意味する事になる。

昔の良き時代の思い出を大切に、町から市になっても人と人との「間合い」だけは大切にしたいものである。

横越中央商店会 会長
横山 清重 さん
(㈲横山寝具店代表取締役)

うれしい横越　発展する横越

昭和25年に横越で生まれ、ずっと55年間生活しています。長男だから高校を卒業したら家業の綿屋を継いで生活の糧にするのだと、自分も周りも信じておりました。家族と従業員の協力で今、寝具専門店で健康をキーワードにしながら商うに至っています。

私の育った横越は農村地帯ですが、新潟市・亀田町に近く、働ける所も多かったので、順調に生活力を上げながら、しかも地域的なまとまりやお互いのやさしさも残してきたと思います。今後も地域仲良くお互いやさしさのある横越を皆で築いていきたいと思います。

横越町は商業的に見ると、今まで買い物に出る地域でしたが、これからは商業地開発や人口増加もあり、魅力ある商業地となり、買い物に来てもらう可能性も大きくなっていると思います。横越中央商店会は横雲通りを中心に会員が集い活動していますが、今後は会員をもっと増やし、商工会と協力しながら町内外の生活者に求められる商業者を目指して研究・研修を行っていきたいと思っています。

生産組合いきいき新鮮組　会長
松本 久雄 さん

新潟市に合併しても輝く横越産農産物

横越町には、阿賀野川の恵みを受けて、肥沃ですばらしい農地が広がっています。先人たちが英知と努力を重ねて、県下に誇る多くの特産品を育ててきてくれました。

今や「横越産」はブランド名として流通・定着しており、消費者・市場の皆さんから深く信頼してもらっています。最近は「地産地消」の考え方が広まってきています。顔の見える生産者・栽培履歴の公開が一般化しつつあり、私たち生産者も、皆さんの信頼に応えるためにさらに努力をしていかなければならないと考えています。今後も安全・安心な農産物を生産していきたいと思っています。

合併後は、多くの消費者の方々からご支持を頂いている「横越産」の名前を、新潟市と合併しても使用していけるように願っています。また、農業分野では高齢化、後継者の減少が問題となっています。若い人たちが夢を持って農業に取り組めるように、後継者育成・農業の活性化について新・新潟市や関係機関に積極的に取り組んでもらいたいと思っています。